



## アップグレードの目的および制約事項

ここでは、アップグレード手順の目的を、処理中に各コンポーネントで見込まれる制約事項と比較します。

- [アップグレードの目的 \(p.3-1\)](#)
- [サポート対象の動作設定 \(p.3-2\)](#)
- [SCE プラットフォーム \(p.3-2\)](#)
- [SCA BB クライアントとサービス設定 \(p.3-4\)](#)
- [Subscriber Manager \(p.3-5\)](#)
- [Collection Manager \(p.3-5\)](#)
- [ロールバックの手順 \(p.3-6\)](#)

### アップグレードの目的

一般に、アップグレード手順は、ソリューション全体で次の内容を目的としています。

- 設定が消失しないこと
- データが消失しないこと
- ネットワーク ダウンタイムが発生しないこと
- サービス ダウンタイムが最少になるか、まったく発生しないこと
- 安全なロールバック
- アップグレードのモジュール化
- 同等な機能
- アップグレードの検証

これらの目的の一部は、インターフェイスの互換性を維持することによって達成されます。たとえば、CSV ファイル、RDR、DB スキーム、および CLI (コマンドラインインターフェイス) は互換性を維持します。プログラミング可能なインターフェイスは、スタティック C リンキングに対してバイナリの互換性またはインターフェイスの互換性を維持します。

すべての要件が、ソリューションの各観点に一致するとは限りません。これらの目的に対する制約事項は、次のセクションおよび関連するコンポーネントのマニュアルで言及します。

## サポート対象の動作設定

SCA BB 3.1 ソリューションは、次のコンポーネントのバージョンの組み合わせをサポートしていません。

- SCOS 3.1
- アプリケーション — SCA BB 3.1 (SCE プラットフォームおよび SCMS-SM にインストールするための PQI)
- SCMS-SM 3.1 (SM が構成に必要な場合)
- SCMS-CM 3.1 または 3.0 (CM が構成に必要な場合)

このマニュアルでは、SM および CM を含むシステムのアップグレードを取り扱います。これらのコンポーネントのいずれか、または両方が必要ない場合は、該当するセクションを省略できます。

## SCE プラットフォーム

### アップグレード手順の制約事項

- [LIC の再焼き付けによるリンク ダウンタイム \(p.3-2\)](#)
- [アップグレード完了前に開始されたフローの分類ミス \(p.3-2\)](#)
- [サービス ダウンタイム \(p.3-2\)](#)
- [集約された未報告データの消失 \(p.3-3\)](#)
- [設定の消失 \(p.3-3\)](#)

### LIC の再焼き付けによるリンク ダウンタイム

3.0.0 からアップグレードする場合にのみ、SCE プラットフォームのアップグレード時にリンク ダウンタイムが発生します (LIC チップ フェームウェアが再焼き付けされます)。予想されるダウンタイムは、システムの自動ネゴシエーションの設定によって異なり、最大で1分になります。

### アップグレード完了前に開始されたフローの分類ミス

アップグレードが完了する前に開始されたフローの分類は、誤っている可能性があります。SCE ソフトウェアのアップグレードが完了したとき、またはスタンバイ SCE がアクティブになったときには、分類が次第に復元されます。この再分類が必要なのは、フローの以前の分類判別情報が失われるためです。正確な分類はフローの最初の分析によって決まるので、再分類は誤っている場合が多くなります。そのため、対応する Generic または Behavioral シグニチャに応じて、通常、フローが再分類されます。このダウンタイムは、再分類されたこれらのすべてのフローが閉じたときに終了します。

### サービス ダウンタイム

サービス ダウンタイムは、非ハイ アベイラビリティ設定およびハイ アベイラビリティ設定での SCE プラットフォームのアップグレード時に発生します。

- 非ハイ アベイラビリティ設定では、SCE プラットフォームは、アップグレード時にトラフィックの分類、レポート、および制御を実行しません。これらの機能は、アップグレードの完了後に復元されます (アップグレードが完了する前に開始されたトラフィック フローが誤って分類されるため、復元は段階的なものです)。詳細については、[「アップグレード完了前に開始され](#)

たフローの分類ミス」(p.3-2)を参照してください。

- ハイ アベイラビリティ設定では、カスケード接続された SCE プラットフォームがアップグレード時に代替として機能するためサービス ダウンタイムは発生しません。ただし、アップグレードが完了する前に開始されたトラフィック フローが誤って分類されるために SCE プラットフォームを切り替えるときの段階的なサービスの構築の場合を除きます。詳細については、「アップグレード完了前に開始されたフローの分類ミス」(p.3-2)を参照してください。

### 集約された未報告データの消失

SCE プラットフォームのアップグレード時、収集システムに未報告の SCE プラットフォームが保有しているサブスクリバクォータおよび使用状況の情報が失われます。システム データのエクスポート頻度に応じて (あらゆる RDR の間隔を通じて設定可能)、このような情報の量を最小限に抑えられます。

これは、ハイ アベイラビリティ構成においても同様です。

### 設定の消失

カテゴリに対する RDR タグの非デフォルトの割り当ては、アップグレード時に失われます。デフォルトのマッピングは、アップグレード後に復元されます。非デフォルトの割り当てが行われた場合、アップグレード後に手動で再設定する必要があります。

## SCA BB クライアントとサービス設定

Service Configuration Editor、SM GUI、および Reporter を内蔵した SCA BB Console は、下位互換性がなく、3.1 システム コンポーネント（SCE プラットフォーム、CM、SM）とのみ連動します。

### アップグレード手順の制約事項

- SCA BB Console の相互運用性 (p.3-4)
- サービス設定のアップグレード (p.3-4)
- ユーザ定義のシグニチャ (p.3-4)
- Reporter および DB の相互運用性 (p.3-4)
- 2 つの SCA BB Console または Reporter の実行 (p.3-4)

### SCA BB Console の相互運用性

Network Navigator のバージョン 3.1 は、サービス設定をバージョン 3.0 の SCE プラットフォームに適用できません。ただし、Network Navigator 3.1 は SCE を 3.1 にアップグレードしてから、サービス設定を適用することが可能です。

### サービス設定のアップグレード

アップグレードされたシステムに適用する前に、古いサービス設定ファイルを SCA BB 3.1 に順応させる必要があります。次の 2 つの方法のいずれかで実装できます。

- SCA BB 3.1 の Service Configuration Editor を使用してサービス設定を再実装します。
- SCA BB 3.1 Service Configuration Editor で開いて、古いコンフィギュレーションを SCA BB 3.1 セマンティックに移植します。この場合、デフォルトの 3.1 設定の SCA BB ユーザ ガイドの説明に従って、3.1 の拡張機能の組み合わせを許可することを推奨します。

### ユーザ定義のシグニチャ

Signature Editor に DSS を作成し、プロトコル パックをインストールする場合、次の一般的な手順を実行して、DSS をプロトコル パックのシグニチャにマージする必要があります。

- プロトコル パックから DSS を抽出します。
- DSS を開き、プロトコル パックの DSS を Signature Editor にインポートして、重複したシグニチャ ID がないことを確認します。
- マージした DSS を保存します。

### Reporter および DB の相互運用性

3.0 に同じレポートが存在する場合は、3.1 の Reporter と Reporter Template を使用して、3.0 データベースからレポートを作成できます。ただし 3.1 で初めてのレポートは、3.0 データベースに接続する際に作成できません。

### 2 つの SCA BB Console または Reporter の実行

同じマシン上で異なるバージョンの 2 つの SCA BB Console または Reporter を実行することはサポートされていないので、実行しないでください。

## Subscriber Manager

- [アップグレード手順の制約事項 \(p.3-5\)](#)
- [LEG の設定 \(p.3-5\)](#)
- [Quota Manager \(p.3-5\)](#)

### アップグレード手順の制約事項

非ハイ アベイラビリティ構成の Subscriber Manager では、SM アップグレード手順によって、サブスクリバ プロビジョニングおよびサブスクリバ ステータス認識 (LEG 通信) のダウンタイムが発生します。

### LEG の設定

SM LEG の設定は、アップグレード時に失われます。関連するリファレンス ガイドの SM LEG のアップグレード手順に従ってください。

### Quota Manager

Quota Manager (QM) がクラスタとして配置されていない場合、サービス ダウンタイムが発生します。これは、SM アップグレード時に発生するサービス ダウンタイムと同じです。

## Collection Manager

- [アップグレード手順の制約事項 \(p.3-5\)](#)
- [設定 \(p.3-5\)](#)

### アップグレード手順の制約事項

Collection Manager のアップグレードは、アップグレードされたマシンに対して処理中にダウンタイムを課します。データ収集のダウンタイムを避けるために、バンドル版の構成または非バンドル版の構成に対して、代替 Collection Manager を使用できます。

SCE プラットフォームでは、代替 Collection Manager への RDR の送信がサポートされています。

### 設定

3.0.5 または 3.0.6 から 3.1 に CM をアップグレードする場合、CM サーバ (PRPC ユーザ ファイル、prpc usr) のユーザ設定が削除されます。アップグレードが完了したら、ユーザを再定義する必要があります。

## ロールバックの手順

アップグレードプロセスが失敗した場合、またはサービスに障害が発生した場合に、ソフトウェアのロールバックが必要になることがあります。ソフトウェアのロールバックでは、以前のリリースにダウングレードして、ネットワークへの損害を軽減させる必要があります。

一般に、自動ダウングレード スクリプトはソリューション コンポーネントで使用できません。ダウングレードをイネーブルにするには、アップグレードする前に古いコンフィギュレーションをバックアップしておく必要があります。ダウングレードするには、各コンポーネントに対して旧リリースのクリーン インストールが必要です。



(注)

---

SCE をダウングレードする場合、「PQI uninstall file」コマンドを使用して、最初に SCA BB PQI をアンインストールする必要があります。このコマンドを実行するには、新しい PQI ファイルが必要です。

---